

学習内容報告書 フォーマット

学校名	北海道標津高等学校
授業者	鈴木祐二

1. 単元計画

1-1. 単元名

水産学習

1-2. 学年

1年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な探究の時間

1-4. 単元の概要

地域の自然と豊かな海洋資源を水産学習から学ぶ。標津沿岸から羅臼にかけて豊かな漁場を形成する理由を地質学的な視点でとらえ、根室海峡の特異な海洋構造を理解する。また、水産資源として重要な魚種を取り上げ、その生態学的特徴について学ぶ。持続可能な漁業と水産資源管理について広い視野で考え、課題解決に向けて積極的に取り組む姿勢を育成する。

【協力機関・講師】 標津町サーモン科学館 館長 市村 正樹 氏

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・海の学習を通し、標津町の海の豊かさを理解し、海洋に親しむ心を育む。また、持続可能な海洋資源の利用、寒流域の生物について学習し、海を介した時空的なつながりを尊重する態度を育成する。
- ・サケ科魚類の地域とのつながりを文化・産業・生態学的につなぎ、日本遺産であるサケの聖地について科学館と協働し学びを深め、郷土愛を育成する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・海に親しみ楽しむ態度や率先して海洋環境を保全していこうとする行動力。
- ・身近な水産資源であるカラフトマスの資源的価値を理解し、保護しようとする態度。
- ・生物の共通性と多様性についてカラフトマスから理解し、既習内容と合わせて理解を深めようとする力

1-7. 単元の展開（全2時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<p>水産学習 徒歩で移動（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 講師へ挨拶 ・学習 大水槽前にてサケ科魚類および根室海峡で水揚げされる水産資源に関する学習 講師のパワーポイントによる解説 ・館内見学 館内を自由に見学 サーモン科学館内で学習 ・レポートについて 	<p>実習の連絡は、事前に教科の中で行う</p> <p>講師事前打ち合わせ スライドの内容 学習内容について</p> <p>レポートについて指導</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・海の学習を通し、標津町の海の豊かさを理解し、海洋に親しむ心を育む。また、持続可能な海洋資源の利用、寒流域の生物について学習し、海を介した時空的なつながりを尊重する態度を育成する。
- ・水産学習を通して身近な産業である漁業に興味関心を持たせ、資源としての魚の重要性を理解する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>移動</p> <ul style="list-style-type: none">・徒歩でサーモン科学館まで移動 <p>挨拶</p> <ul style="list-style-type: none">・館長へ挨拶 <p>学習活動</p> <p>レポートのためにメモを取る</p> <ul style="list-style-type: none">・館長による解説（館内大水槽前）・地域に生息するサケ科魚類の生態学習 サケ科魚類の進化と遡上・産卵の関係 卵の特徴と発生・水産業との関わりについて学習 シロザケの資源と世界の現状 根室海峡の地質的特徴と水産資源について <p>館内見学</p> <ul style="list-style-type: none">・サケ科魚類やチョウザメなどに関して見学 <p>レポートの指示</p>	<p>引率教員による安全確認</p> <p>講話を聴きながらメモを取らせる。</p> <p>館内の巡回</p> <p>事後レポートの提出について確認する</p>



3. 今回の活動の自己評価

地域の水産資源を中心に学びを深めることができた。とくに、根室海峡の特異な地質とそこに息づく魚類の豊かさを講師から学ばせることができた。さらに、サケ科魚類について進化と生態を含めた深い学びにつながり、有意義な時間とすることができた。館内見学も生徒が楽しんでサーモン科学館を見学している様子が見られ充実した学習となった。

4. 今後の課題

1年生にとっては、産業からの学びと生物学的な学びにつながる学習であるため、今後も継続した学習活動にする予定である。講師との事前打ち合わせと学習内容の共有が重要である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点